

(別添2)

### 事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別  
事業所名（施設名）

保育所  
長和町ながと保育園

第三者評価の判断基準

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。  
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態  
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態  
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。</li> <li>■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。</li> <li>■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。</li> <li>■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。</li> <li>□ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。</li> </ul>	<p>○長和町の教育大綱の幼児教育の理念・基本方針、保育方針及び保育所保育指針に基づいて、保育課程が編成されて指導計画（保育計画）が策定され実践されていました。</p> <p>○保育課程の編成は、定期的な振り返りや記録等により評価を行い、次の編成に反映させることが重要になりますので、組織としての評価、振り返りを定期的実施し、掲示等により、職員や保護者への周知共有を図るようお願いします。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。</li> <li>■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。</li> <li>■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。</li> <li>■ 9 内装等には、木材を利用している。</li> <li>■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。</li> <li>■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。</li> <li>■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。</li> </ul>	<p>○全ての保育室は、大きな窓で風通し、採光、換気、広さ等、子どもたちが安心してくつろぎ、心地よく過ごせる環境として整備されていました。</p> <p>○保育室の出入口の引き戸や廊下、室内の壁内装も全て木材を使用して、特有の温かみのある育成環境に配慮してありました。また、手洗い場、トイレ等の空間も広々として、数量も整い、清潔感のある環境になっていました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。</li> <li>■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。</li> <li>■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。</li> <li>■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。</li> <li>■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。</li> <li>□ 18 せかず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。</li> </ul>	<p>○職員（特に保育士）は、一人ひとりの園児の家庭環境や生活リズム、発達状態を的確に把握し、園児の個人差や特性を共有周知して、個々の園児の状態に応じた適切な保育支援を目指していることを職員インタビューや指導計画等においても確認できました。</p> <p>○「早くしなさい」「ダメ」「いけません」等の制止の言葉は保育士により、徹底されていないとの自己評価の結果もありましたので、標準的サービスの実施方法や職員研修等でさらに周知徹底を図ることを期待します。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。</li> <li>■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。</li> <li>■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。</li> <li>■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。</li> <li>■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。</li> </ul>	<p>○食事、排せつ、睡眠、着脱、清潔等の基本的な生活習慣についての保育支援は、園児一人ひとりの発達状態や保育課程による指導計画に基づいて、適切に実施されていました。</p> <p>○一人ひとりの園児の発達に応じた自立心を育み、尊重する保育支援や排せつ・着替え等のプライベートにも配慮した取り組みを実践する姿勢が組織として伺えました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。</li> <li>■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。</li> <li>■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。</li> <li>■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。</li> <li>■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。</li> <li>■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。</li> <li>■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。</li> <li>■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。</li> <li>□ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。</li> <li>■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。</li> </ul>	<p>○園児自らが進んでやろうとする気持ちや行為を受容して、実際にやることできるように働きかけ、やり遂げたときには一緒に喜んで、さらに次のチャレンジに向かうという保育支援が指導計画で確認できました。</p> <p>また、0歳児、3歳未満児、3歳以上児の発達や年齢に応じた自立支援への配慮も汲み取ることができました。また、保育キーパー制度を導入して、不審者対策や設備の保全等、さらにはカブトムシの飼育管理等の業務を行っていました。</p> <p>○周辺地域の状況から、地域住民との関わりは、行事等の意図的な取り組みを図ることを期待します。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。</li> <li>■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。</li> <li>■ 36 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。</li> <li>■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。</li> <li>■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。</li> <li>■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。</li> </ul>	<p>○乳児期における発達の個人差や抵抗力の弱さや表現の未熟さ等に配慮した細かい保育課程や指導計画に基づいた養護と教育が、一体的に展開されていることを保育課程や指導計画及び連絡帳や担当保育士のインタビュー等で確認できました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。</li> <li>■ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</li> <li>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</li> <li>■ 43 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</li> <li>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中を仲立ちをしている。</li> <li>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</li> <li>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○3歳未満児の保育については、保育課程による指導計画に基づいて、感染症対策や基本的な生活習慣、事故防止等に配慮した養護・教育への取り組みが保育課程や個別指導計画の記録や職員のインタビュー、連絡帳等で確認できました。</p> <p>○3歳児未満クラスは、落ち着いた雰囲気での二人の担当保育士が連携をとり、適切な保育支援が感じられました。さらに3歳児以上の子どもたちとの交流の機会を計画的に図ることを期待します。</p> <p>○付加サービスとして、外国人講師による英語の学習プログラム（AET）が導入されておりました。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</li> <li>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</li> </ul>	<p>○3歳児以上の保育支援は、基本的な生活習慣や自主的活動、周囲の園児たちとの関わり方、運動活動、集団活動等に配慮工夫したプログラムが用意され実践されていました。</p> <p>○特に就学前の園児については、就学先の小学校等との交流をさらに保育課程に明記して計画的に実施していただくように期待します。</p> <p>○職員インタビューでは、地域の子どもたちをながと保育園で育てようという思いの職員が多く、小学校との交流についても積極的に取り組もうとする姿勢がありました。担当クラス以外の職員との交流や情報共有についての意見もありましたので、職員研修等において情報の共有を図ることを期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 51 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。</li> <li>■ 52 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。</li> <li>■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。</li> <li>■ 54 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。</li> <li>■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。</li> <li>■ 57 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。</li> <li>□ 58 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。</li> </ul>	<p>○発達障害の子どもさんがグレーゾーンを含めて、数名利用していますが、発達過程や障がいの状態を把握して、設備や他の子どもさんとの交流にも配慮した個別保育計画に基づいた保育支援を展開していました。</p> <p>○これから障がい児、特に医療的ケアが必要な子どもさんのニーズにも対応できる、地域の子育て支援の拠点としての体制整備もさらに期待します。</p> <p>○どのような障がいの子どもさんに対応できる体制の整備と情報の提供発信についても期待します。</p>
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。</li> <li>■ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。</li> <li>■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。</li> <li>■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。</li> <li>■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。</li> <li>■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。</li> <li>■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。</li> </ul>	<p>○長時間保育については、入園の案内や指導計画等に、保育内容や保育士間の引継ぎ、保護者との連絡等の基準があり、適切に実施されました。</p> <p>○ノーメディア日を毎月2回実施して、家庭でのメディアコントロールに取り組んでいました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。</li> <li>■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。</li> <li>■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。</li> <li>■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。</li> </ul>	<p>○地元の小学校とは、園児の交流の機会を設け定期的実施していました。</p> <p>○指導計画等に小学校や町行政との連携や就学に向けた取り組み等の共有事項の明示をお願いします。</p>
	(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。</li> <li>■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。</li> <li>□ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。</li> <li>■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。</li> <li>■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。</li> <li>■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。</li> <li>□ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。</li> <li>□ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。</li> </ul>	<p>○園児の健康管理については、入園の案内や連絡帳を活用して対応していました。</p> <p>○園児の健康と安全の確保は、保育園の基本事項です。一人ひとりの園児さんの健康状態、発育・発達状態に応じた心身の健康保持のためのマニュアルの整備やSIDS等に対応する仕組みを図るをお願いします。</p>	
		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。</li> <li>■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。</li> <li>■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。</li> </ul>	<p>○健康診断及び歯科検診は、計画に基づいて実施されていました。</p> <p>○健康診断等の結果については、健康カルテや指導計画等にも明記して、職員間の共有をさらに図ることを期待します。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。</li> <li>■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。</li> <li>■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。</li> <li>■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。</li> <li>■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。</li> </ul>	○アレルギー疾患や慢性疾患等の園児については、アレルギー対応ガイドラインに基づいたマニュアル等により、嘱託医や保護者等連携を密にして適切な対応を行う仕組みがありました。さらにアレルギー疾患等に対する定期的な職員研修や記録の整備もお願いします。
		(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。</li> <li>■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。</li> <li>■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。</li> <li>■ 91 食器の材質や形などに配慮している。</li> <li>■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。</li> <li>■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。</li> <li>■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。</li> <li>■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。</li> </ul>	○食事を楽しむ工夫環境については、調理室の可視化が工夫されていました。一人ひとりの園児の状況に応じたテーブル、椅子の高さに配慮して、年長さんには、おかわり等も用意されていました。提供した献立メニューのサンプルを掲示して保護者に知らせる等の適切な取り組みがありました。  ○食育は家庭との連携も重要になります。保護者に対してのレシピの提示や試食会等も実施できることを期待します。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。</li> <li>■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。</li> <li>■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとして</li> <li>■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。</li> <li>■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。</li> <li>■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。</li> <li>■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。</li> <li>■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。</li> </ul>	<p>○町の衛生管理マニュアルにより、地域食材を全て利用した献立メニューを実施し、子ども一人ひとりの成長や発達状態、家庭の食生活の状況も把握しながら、園児がおいしく安心して食事を楽しむ工夫配慮がされていました。</p> <p>○調理員からは、アレルギー食の対応が増える傾向にはあるが、適切な対応を心がけているとのコメントがあり、調理スタッフで話し合いを密にして、業務は比較的スムーズに行っているとのコメントがありました。</p> <p>○調理している様子を直接園児も見ることができ設備になっており、食育環境が整備されていました。できたら、調理員が園児の食事場面に関わるような配慮ができれば、さらに良い影響が出てくることを期待します。</p>
2 子 育 て 支 援	(1) 家庭との 緊密な連 携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。</li> <li>■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。</li> <li>■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。</li> <li>■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。</li> </ul>	<p>○保護者や家庭との連携については、入園時に丁寧な説明がされていました。その後は日々の送迎時のコミュニケーションや連絡帳等により園児の活動や発達の状況や保育の意図について情報の共有が図られていました。</p>	



評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。</li> <li>■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。</li> <li>■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。</li> <li>■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。</li> <li>■ 112 相談内容を適切に記録している。</li> <li>■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。</li> </ul>	<p>○保護者の相談支援には、園長や主任保育士が対応する仕組みがあり、日常的には担任保育士が連絡帳等で対応していました。</p> <p>○保護者アンケートや職員インタビューにおいて、十分に相談に応じられていないとのコメントがありました。さらに保護者支援の組織的な相談支援体制と保護者への周知、アンケート等によるニーズの把握、職員間の共有の仕組みの見直し等への取り組みを期待します。</p>
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。</li> <li>■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。</li> <li>■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。</li> <li>■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。</li> <li>■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。</li> <li>■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。</li> <li>■ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。</li> </ul>	<p>○マニュアルにより、虐待防止等の権利侵害を受けている子どもの早期発見、早期対応、予防等の取り組みが図られていました。</p> <p>○これまで虐待に関する事例はないとのことですが、保育園は園児等の虐待予防や保護者支援を求められています。さらに体制の整備や関係機関との連携、職員の研修体系を整備継続していただくように期待します。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。</li> <li>■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。</li> <li>■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。</li> <li>■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。</li> <li>■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。</li> <li>■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。</li> </ul>	○人事評価は、町役場の担当課で実施していました。職員インタビューにおいては、全体的にモチベーションの高さが伺えました。これからも保育課程と指導計画に基づいて保育を実践して、振り返り等の自己評価を行い、専門性の向上や保育の改善について、さらに進めていくことを期待します。